



近年災害の傾向と特徴を説明する木曾川上流河川事務所の稲葉傑副所長

＝ 大垣市情報工房（大垣市小野）

## 『大垣で防災リーダー養成講座』 風水害や巨大地震など学ぶ

長野県や広島県で豪雨による深刻な土砂災害が発生するなど防災への取り組みが課題になる中、大垣市で12月6日（土）、災害に対する正しい知識や技術を習得し、地域の防災活動の中心となる「防災リーダー」を養成する「大垣市防災ひとづくり塾」が開かれた。

大垣市が主催し、今年度で6回目。市民ら約70人が参加し、自然災害の仕組みや防災、救助技術などについて学んだ。

講座では、木曾川上流河川事務所いなば すくるの稲葉傑副所長が「国土交通省の取り組みと防災情報」と題して講演。稲葉氏は、西美濃地域で発生した災害の状況について説明した上で、近年、頻繁に発生しているゲリラ豪雨を取り上げ、「100年後には地球の平均気温は1.8～4.0℃上昇し、豪雨による洪水も大幅に増加する。また、台風も大型化すると言われている」とした上で、「雨量や水位などの情報を上手く活用し、命を守る行動に繋がってほしい」と訴えた。

さらに、東日本大震災の教訓から、今後の地域防災のあり方を提唱する群馬大学の片田敏孝教授の言葉を引き、次の災害への備えのため「①行政の設定した想定外力とらに囚われすぎないこと、②最善を尽くすこと、③自らが率先して避難することが重要」と紹介した。

また、地震に詳しい名古屋大学大学院やまおか こうしゅんの山岡耕春教授、岐阜県大垣土木事務所さいとう たけしの西塔剛・技術主査らによる巨大地震や土砂災害などの講演も行われ、災害の状況や被害を少なくするための行動が紹介された。

講座は来年1月17日（土）もあり、受講生は引き続き災害に対する正しい知識や技術の習得に臨む。